



2014年12月1日

No. 110

.....
「日本語で味わうみことば」

国分寺バプテスト教会牧師/JCFN 理事長 米内 宏明

クリスマスおめでとうございます。

聖書が書かれていなければ、イエス様がおいでになったことも、そのお祝いのクリスマスも感謝ありませんでした。日本語の聖書がなければ日本語を母語とする一人ひとりの心に神様の恵みが染みわたることもなかったかもしれません。

世界の各地に住んでいる日本人が日本食を恋しく思うように、海外で暮らす日本人にとって、日本語で聖書のことばを味わう交わりは貴重です。外国のことばで聖書を読んでも、よほど語学に堪能でないかぎり、「そうか」と心にストーンと落ちてくることは難しいものです。

かつては海外に出ると、日本語の聖書を手に入れること自体が困難なことでした。インターネットが発達した今日では、そのような苦労は少なくなり、むしろ、多くの日本人が海外で初めて聖書に触れる機会を得ているようです。

しかし個人やグループで、聖書をそれだけで理解することには限界を感じる場合があります。私の小さな経験ですが、海外で日本人のグループ聖書研究に参加したときのことです。日本語の聖書で学んではいたのですが、手引もなく、背景や事情などが不明なままであったため、何がずれていって、最後にはみんなが「???'で終わってしまったことがありました。そんなとき、聖書を読む会の手引は大きな助けになります。実際に私も海外にいた時には手引を使って助けられていました。

手引という導き手とともに聖書を学ぶとき、海外で味わう日本食のように、聖書のことばが深く心にしみこむ学びができるでしょう。そのようにみことばを味わった経験は、日本へ帰国してからも、その人を支え、同じ恵みを分かち合うものとなっていくことでしょう。

この季節、聖書に書かれている主の恵みが世界各地に広がり、味わわれるようにと祈っています。